

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
平成31年3月22日（金）
- 2 確認箇所  
Fタンクエリア
- 3 確認項目  
5・6号機滞留水貯留設備配管の敷設状況

### 4 確認結果の概要

6号機で発生する滞留水については、フランジ型のAタンク及びBタンク並びに油水分離装置を経由してCタンクに移送され、その後、浄化装置にて放射性物質を除去後、淡水化装置を用いて処理水と塩分濃度が高い濃縮水に分離し、処理水は構内に散水、濃縮水は発生する滞留水とともに再度貯留する運用を行っている。

しかし、Aタンク及びBタンクの複数のフランジ型タンクを経由する場合、漏えいリスクが上昇すること、また、建屋滞留水は油分を含んでおらず、油水分離装置を通す必要がないことから、現在、6号機タービン建屋からCタンクへ直接移送するための配管の敷設工事が行われている。今回、当該工事の進捗を確認した。

- ・6号機タービン建屋からフランジ型のCタンクへ移送するため、新たにPE管を敷設し、工事は概ね完了している様子であった。（写真1）
- ・東京電力によると、Cタンクはタンク内面のフランジ接続部の点検を実施しており、漏えい防止対策として、シール処理及びポリウレタ樹脂による塗装を行ったとのことであった。確認時、タンク側面にも樹脂が塗装されていた。（写真1-2）



（写真1-1）  
※矢印は滞留水の流れを示す



（写真1-2）  
同左

- 5 プラント関連パラメータ等の確認  
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。